

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ウ	多角的な交流の推進	施策	①観光交流、経済交流等の推進
			施策の小項目名	○姉妹提携等に基づく交流、地域間交流の促進
主な取組	小渚沖縄教育研究プログラムの推進		対応する成果指標	MICE開催件数
施策の方向	<p>・東アジアの中心に位置する地理的特性、自然的特性、独自の歴史的・文化的特性等を生かし、学術・文化・友好親善など様々な分野での国際交流を推進するため、福建省との友好県省やハワイ等との姉妹提携等に基づく交流を促進し、また、海外との新たなMOU（連携覚書）締結など地域間交流を促進します。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
<p>国際的な視野を持った人材の育成及びアジア太平洋諸国とのネットワーク形成を図ることを目的として、沖縄県民等を「小渚沖縄教育研究プログラム」通してハワイ大学大学院等へ派遣し、同プログラムの推進を図る。</p>	<p>県関係機関等</p>	<p>小渚沖縄教育研究プログラムを通じた、県内の社会人等のハワイ大学大学院又はハワイ東西センターへ派遣によるハワイとの交流の促進</p>		
		<p>ハワイ大学大学院又はハワイ東西センターへの派遣者数(累計)</p>		
		2名	2名(4名)	2名(6名)
担当部課【連絡先】	企画部科学技術振興課	【 098-866-2560 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	ハワイ東西センター連携事業			予算事業名	ハワイ東西センター連携事業	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
一括交付金 (ソフト)	委託	7,790	8,724	主な財源	実施方法	当初予算額
				一括交付金 (ソフト)	委託	11,283
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
<p>ハワイ大学院等へ2名派遣し、同派遣に係る費用を東西センターと共同で負担した。派遣者を募るために本プログラムの周知広報等を実施した。</p>				<p>ハワイ大学院等へ2名以上派遣し、派遣に係る費用を東西センターと共同で負担する。派遣者を募るために効果的な方法で本プログラムを周知広報する。</p>		

活動指標名	ハワイ大学大学院又はハワイ東西センターへの派遣者数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	3名	3名	2名	2名	100.0%	順調	<p>「小淵沖縄教育研究プログラム」について、県内外の大学生や社会人等を対象とした説明会の開催等、広く広報活動を実施した。 派遣者2名の留学に係る費用を同プログラムで負担した。</p>

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>「小渚沖縄教育研究プログラム」について、県内外の大学生や社会人等を対象とした説明会の開催等、広く広報活動を実施した結果、目標値の2名の派遣に繋がったため、順調と判断した。</p>	
<p>(2) これまでの改善案の反映状況</p>	
令和4年度の取組改善案	反映状況
<p>「小渚沖縄教育研究プログラム」について、県内外の大学生や社会人等を対象とした説明会の開催や企業訪問等を引き続き実施し、高校生以上に対し大学院留学への興味・関心を高め、語学力を兼ね備えた研究人材の確保に努める。</p>	<p>県内大学及び県内企業への周知広報のほか、県外大学に在籍している沖縄県民向けの取り組みとして、県外大学や県出身者向け学生寮へポスター送付及びオンライン説明会の案内等を積極的に実施した。また、高校生以上に対し、過去派遣者の留学体験や現在の活動及び現在派遣者のハワイでの生活の様子等を紹介する留学体験報告会をオンラインで実施し、同プログラムに適切な人材の確保に努めた。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	円安や米国内でのインフレの影響により、個人で留学する場合は莫大な資金が必要となり、本県における留学へのマインド低下が懸念されるため、適切な人材を確保するために、周知広報を工夫する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	円安や米国内でのインフレの影響により、個人で留学する場合は莫大な資金が必要となり、留学へのマインド低下の懸念があるため、小渚沖縄教育研究プログラムの優位性が伝わるよう広報内容を工夫する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ウ	多角的な交流の推進	施策	②沖縄の文化を通じた交流
			施策の小項目名	○多様な沖縄の文化の積極的な発信、国内・国外との文化交流
主な取組	沖縄・奄美連携交流促進事業		対応する成果指標	県が支援した文化交流イベントの参加者数
施策の方向	・国際的な文化交流イベントの開催や外国人向けの文化観光コンテンツの発信など、県独自の文化プログラムの実施を通じて、多様な沖縄の文化を積極的に発信し、国内・国外との文化交流に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
地理・自然・歴史・文化など各分野で交流が行われている沖縄－奄美群島間において、両地域の連携・交流を促進するとともに、移動しやすい環境をつくるため、両地域間の航空路及び航路運賃を支援し低減を図る。	県,鹿児島県,民間企業	沖縄－奄美群島間の航空路及び航路運賃の低減		
		運賃を低減した路線における利用者数(累計)		
		航空路19,000人 航路51,000人	航空路19,380人 (38,380人) 航路52,020人 (103,020人)	航空路19,700人 (58,140人) 航路53,040人 (156,060人)
担当部課【連絡先】	企画部地域・離島課	【 098-866-2370 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	沖縄・奄美連携交流促進事業			予算事業名	沖縄・奄美連携交流促進事業	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
一括交付金 (ソフト)	負担	40,367	60,659	主な財源	実施方法	当初予算額
				一括交付金 (ソフト)	負担	61,998
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
沖縄－奄美群島間における航空路及び航路運賃について、鹿児島県との折半により支援した。				沖縄－奄美群島間における航空路及び航路運賃について、鹿児島県との折半により支援する。		

活動指標名	運賃を低減した路線における利用者数(累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
実績値	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	10,259人	14,613人	20,084人	航空路19,000人	100.0%	概ね順調 沖縄－奄美群島間における航空路及び航路の割引運賃に対して、鹿児島県との折半により負担金を拠出した。	
活動指標名	運賃を低減した路線における利用者数(累計)		R4年度				
実績値	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	17,050人	23,579人	38,808人	航路51,000人	76.1%		

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>本事業における割引運賃の利用実績は58,892人（航空路20,084人、航路38,808人）で、目標値の70,000人に対し、約84%と達成状況となっており、概ね計画どおり実施することができた。</p>	
<p>(2) これまでの改善案の反映状況</p>	
令和4年度の取組改善案	反映状況
<p>・令和4年度において、復帰50周年記念事業の一環として、「沖縄・奄美連携交流促進パネル展」を開催する予定であり、本事業についてより広く周知することで、利用促進を図る。</p>	<p>・令和4年度において、復帰50周年記念事業の一環として、「沖縄・奄美連携交流促進パネル展」を那覇空港及び那覇港、本部港などにて実施、那覇空港では沖縄県・鹿児島県の両副知事などが参加する記念セレモニーを開催し、本事業について広く周知を図った。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	更なる利用促進を図るため、本事業について周知を強化する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
⑤ 情報発信等の強化・改善	更なる利用促進を図るため、本事業について県ホームページ等を活用し、周知を強化する。